教　科　名	国語	科目名	現代文Ｂ	単位数	３　単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し，適切に表現する能力を高めるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を深め，進んで読書することによって，国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を評価すること。 (イ)文章を読んで，書き手の意図や，人物，情景，心情の描写などを的確にとらえ，表現を味わうこと。 (ウ)文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (エ)目的や課題に応じて，収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成し，自分の考えを効果的に表現すること。才語句の意味，用法を的確に理解し，語彙を豊かにするとともに，文体や修辞などの表現上の特色をとらえ，自分の表現や推敲に役立てること。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして，自分の考えを深め，発展させている。	必要な情報を用い，相手や目的，課題に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査
教科書、教材など	東京書籍『精選現代文Ｂ　改訂版』，『精選現代文Ｂ学習課題ノート』（準拠ノート）， 常用漢字ダブルクリア，新国語便覧				
授 業 形 態	一斉授業				

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	評論１	世界をつくり替えるために	5	・評論を読み，その要旨を的確に捉える。 ・表現の特徴に注意して筆者の主張を的確にとらえる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5		ミロのヴィーナス	6		
		小説１	山月記	8	・小説の虚構性をとおして，人間とは何かについて考えを深める。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
	6	小説１	旅する本	6	・言語と自我の構造の関係，事実とその解釈の問題について，考えを深める。	
		評論２	相手依存の自己規定	6		
			見えない季節他	6	・詩・短歌・俳句を読み，それぞれの表現の特色を理解し，自分の表現に役立てる。	
	7	詩歌		1		
		期末考査	テスト見直し・解説	1		
			科学的「発見」とは	6	・評論を読み，そこに提示された問題について，自分の意見を表現する。	
2	8	評論３	おじいさんのランプ			
			消費されるスポーツ	6		
	9				・作者の人間関係をとおして人生への関心を深め，自己の形成に資する。	
		小説２	こころ	10		
	10					
				1	・評論を読み，そこに提示された社会について，的確に理解する。	
		中間考査	テスト見直し・解説	1	・筆者の提起している問題について理解し，社会や人間についての考えを広げる。	
			「である」ことと「する」こと	6		
	11	評論４			・時代背景をふまえて小説を読み，人間の生き方について考えを深める。	
			人間の運命と科学	6		
			藤野先生	8		
	12	小説３				
				1	・日本と西洋の美意識の違い，情報社会と人間の関係について考える。	
3	1	期末考査	テスト見直し・解説	1	・絵画や地図を参考にして評論を読み、構成・展開・要旨を的確に理解する。	
			日本人の美意識	6		
	2	評論５	地図の想像力	6		
				1		
	3	学年末考査	テスト見直し・解説	1	・それぞれの形式やリズムに注意して詩歌を読み，そこに描かれた世界を味わう。	
			牡丹花は―短歌抄	2		
		詩歌	プラタナス―俳句抄	2		
備考：　３年　現代文Ｂ			合計	105		

教　科　名	国語	科目名	現代文Ｂ	単位数	３　単位
対 象 学 年	２年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し，適切に表現する能力を高めるとともに，ものの見方，感じ方，考え方を深め，進んで読書することによって，国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)文章を読んで，構成，展開，要旨などを的確にとらえ，その論理性を評価すること。 (イ)文章を読んで，書き手の意図や，人物，情景，心情の描写などを的確にとらえ，表現を味わうこと。 (ウ)文章を読んで批評することを通して，人間，社会，自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。 (エ)目的や課題に応じて，収集した様々な情報を分析，整理して資料を作成し，自分の考えを効果的に表現すること。才語句の意味，用法を的確に理解し，語彙を豊かにするとともに，文体や修辞などの表現上の特色をとらえ，自分の表現や推敲に役立てること。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして，自分の考えを深め，発展させている。	必要な情報を用い，相手や目的，課題に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）	・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート，レポート・感想文などの作成した文章） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査

教科書、教材など	三省堂『改訂版　明解現代文Ｂ』（第２学年では第Ｉ部を扱います），『明解現代文Ｂ学習ノート』，常用漢字ダブルクリア，新国語便覧
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	随想一	葉桜の頃	6	・筆者と息子が深まりゆく春の中で発見したことを読み味わう。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
	5		蜜柑の受難	6	・電車内の人々がとった様々な行動を通して、人の心のありようについて考える。	
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		小説一	水かまきり	7	・登場人物の微妙な心の移り変わりを読み味わう。	
	6		芋ようかん		・揺れ動く人間模様をとおして，「物作り」や「商売」が直面する問題について考えを深める。	
	7	評論一	コンコルドの誤り	8	・人間がその行動や思考において「進化」から外れた「誤り」を犯すことについて考える。	
		期末考査		1		
2	8		テスト見直し・解説	1		
	9		想像する力	7	・人間とは何か、チンパンジーと比較することで、見いだされる、人間の特徴を考える。	
		随想二	前の駅出ました	7	・日常生活の中での「視点の切り替え」の重要性について考えを深める。	
		詩	耳の秋	3		
			未確認飛行物体	3	・情景を想像し、「耳の記憶」とは何かを考える。	
	10				・空を飛ぶ薬缶や、砂漠に咲く花の様子を想像しながら読み、この詩のおもしろさを味わう。	
				1		
		中間考査	テスト見直し・解説	1	・反対語に着目して考えることをとおして、ものの見方、考え方を深める。	
			反対語を意識して考えよう	8		
		随想二	ナイン	8	・社会の変容に伴う人間関係の変化と，時代を超えた信頼や友情について考えを深める。	
	11	小説二				
				1		
		期末考査	テスト見直し・解説	1	・真の豊かさとは何であり，それを手に入れるためにはどうすればよいのか考える。	
	12		持たないという豊かさ	8		
		評論二			・「ネット人格」の具体例を手がかりに、自己と他者との関わりについて考えを深める。	
3			ネット人格	8		
			テスト見直し・解説			
	1			1		
		学年末考査		1	・「私」の心情・思考を読み取り，人間の心や孤独，通じ合うことなどについて考えを深める。	
	2		こころ	9		
		小説二			・自分の好きな本をポップの形で紹介することにより，相手や目的に合った情報の発信の仕方について理解を深める	
	3	実用の文章２	お勧め本のポップを作ろう	7		
備考：			合計	105		

教　科　名	国語	科目名	古典Ｂ	単位数	３　単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに，ものの見方，感じ方，考え方を広くし，古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	(ア)古典に用いられている語句の意味，用法及び文の構造を理解すること。 (イ)古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえること。 (ウ)古典を読んで，人間，社会，自然などに対する思想や感情を的確にとらえ，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにすること。 (エ)古典の内容や表現の特色を理解して読み味わい，作品の価値について考察すること。 (オ)古典を読んで，我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深めること。				

科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	古典を読む力を進んで高めるとともに，古典についての理解や関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり，その価値を考察したりして，自分の考えを深め，発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め，知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察（学習活動への参加姿勢や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート）			・行動の観察（学習活動における発言内容や態度） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート，プリント，ワークシート） ・定期考査

教科書、教材など	数研出版『改訂版　古典Ｂ　古文編／漢文編』，古典Ｂ準拠ワーク　古文編／漢文編， 古典Ｂノート古文編／漢文編，体系古典文法，漢文学習必携，全訳古語辞典，新国語便覧
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価
1	4	【古文】 説話	十訓抄『大江山』	6	・古典を読んで，内容を構成や展開に即して的確にとらえる。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価
			宇治拾遺物語『伴大納言善男』	6	・古典に用いられる語句の意味，用法及び文の構造を理解する。	
	5				・助動詞に注意して文脈をとらえ，登場人物の心情を読み取る。	
		中間考査		1	・和歌の内容と文章の関係をふまえ，登場人物の心情を読み取る。	
			テスト見直し・解説	1		
	6	【漢文】 故事			・さまざまな漢文句法を理解する。	
			買履忘度	2	・鄭人のどのような態度が批判されているのかを的確にとらえる。	
			漱石枕流	2	・孫子荊の発現の面白さについて，自分なりの考えを形成する。	
			華歆・王朗	3	・「華王之優劣」の意味を理由とともに的確にとらえる。	
			画竜点睛	3	・張僧繇の書いた竜の絵の特徴をまとめる。	
	7		江南橘為江北枳	4	・晏子がどのような論理で荊王たちの計略に対抗したのかをとらえる。	
		期末考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		【古文】				
2	8	歌物語	伊勢物語『初冠』	4	・和歌に用いられている修辞法を理解し，和歌が文章の内容と一体になって表現上の効果を生み出していることを理解する。	
	9		『渚の院』	8		
			大和物語『をばすて山』	8	・登場人物の交流について自分のなりの考えをもち，ものの見方，感じ方，考え方を豊かにする。	
		【漢文】 漢詩	絶句『鹿柴』	2	・古典を読んで，我が国の文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関係について理解を深める。	
	10		『勧酒』	2		
			『山中対酌』	2	・漢詩の構成上・音声上の規則を理解して，読み味わう。	
			律詩『旅夜書懐』	2		
		中間考査		1		
			テスト見直し・解説	1		
		【古文】				
	11	随筆	枕草子『大納言殿参り給ひて』	6	・作者以外の「女房たち」がとった行動を状況ごとに順にまとめる。	
		日記文学	更級日記『東路の果て』	6	・表現に注意して文脈をとらえ，作者の物語に対する心情をまとめる。	
	12		『物語』	6		
		期末考査		1	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，作者の物語に没頭する様子を読み取る。	
			テスト見直し・解説	1		
3	1	物語	源氏物語『光源氏の誕生』	8	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，「一の皇子」と「玉の男皇子」に対する帝の接し方の違いをまとめる。	
	2		『藤壺の入内』	7	・語句や表現に注意して文脈をとらえ，光源氏の藤壺に対する心情をまとめる。	
				1		
	3	学年末考査		1	・和歌に描かれている情景を，表現に注意して読み，登場人物の状況をとらえる。	
			テスト見直し・解説	8		
			源氏物語『小柴垣のもと』			
備考：　３年　古典Ｂ			合計	105		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理Ｂ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	

科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地 認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	地理的内容、現代社会的内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	地理的事象（地形、気候など）を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。	ワークノート、プリントの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	世界地理と現代の諸課題の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。
評価方法	授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。

教科書、教材など	「新詳地理B」（帝国書院） 「新詳高等地図　　帝国書院編集部編」（帝国書院） 「新編　地理資料　２０２０」（とうほう）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1		１部 世界の諸地域の姿と地球的課題	２節　世界の気候 1　気候の成り立ち 2　世界の気候区分 3　気候と植生・土壌 4　変化する気候	18	○世界の気候について、地域ごとの違いとその要因について理解を深める。さらに、気候区ごとの特徴や気候変動による人間生活との関係を考察する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成 【資料活用の技能】年表や地図の作成 【思考・判断・表現】レポートの作成・発表 【知識・理解】小テストや定期考査
	4	１学期 中間考査	３節　日本の自然の特徴と人々の生活 1　日本の地形 2　日本の気候 3　開発に伴う災害と防災	18	○日本の自然の特徴と人々の生活について、地形や気候の特徴と、自然災害の特徴を理解するとともに、土地開発の状況などもふまえて防災のあり方を考察する。	
	5		４節　環境問題 1　世界の環境問題 2　さまざまな環境問題 3　日本の環境問題		○世界の環境問題について、その背景や原因、影響、対策を多面的に考察する。また、日本国内の環境問題について発生した背景や問題解決への取り組みを考察する。	
	6	１学期 期末考査	２章　資源と産業 １節　世界の農林水産業 1　農業の発達と分布 2　農業の地域区分 3　現代世界の農業の現状と課題 4　世界の林業・水産業 5　日本の農林水産業	18	○世界の農林水産業について、自然条件や社会条件と関連づけて農業の地域区分をとらえるとともに、現代世界の農林水産業の現状と課題を考察する。また、世界のなかでの日本の農林水産業の課題を考察する。	
	7		２節　食料問題 1　世界の食料問題 2　発展途上国の食料問題 3　先進国の食料問題 4　日本の食料問題		○食料問題について、世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し、発展途上国と先進国の事例を考察する。また、日本が抱える食料問題を考察する。	
	8		３節　世界のエネルギー・鉱産資源 1　エネルギー資源の種類と利用 2　化石燃料の分布と利用 3　電力の利用 4　鉱産資源の種類と利用	16	○世界のエネルギー・鉱産資源について、それぞれの種類や分布、利用の現状や方法を考察する。	
2	9	２学期 中間考査	４節　資源・エネルギー問題 1　現代世界の資源・エネルギー問題 2　さまざまな資源・エネルギー問題 3　日本の資源・エネルギー問題		○資源・エネルギー問題について、世界と日本の資源・エネルギー問題を大観し、問題の原因や近年の動向、問題解決の取り組みを考察する。また、日本が抱える資源・エネルギー問題を考察する。	
	10					
	11	２学期 期末考査				
	12					
	1					
3	2	学年末考査				
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	地理歴史	科目名	地理Ａ	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	（１）現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。 （２）地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地 認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	地理的内容、現代社会的内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。	地理的事象（地形、気候など）を多面的・多角的に比較・考察した上で、その結果を的確に発表する。	ワークノート、プリントの作業諸課題に関する諸資料を見学・収集し、吟味・考察してその成果を適切に年表・地図などに表現する。	世界の地理と現代の諸課題に関する相互の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることのできる能力を身につけることができる。
評価方法	授業中の取り組む状態や、発問に対する答え方。ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追及しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探すなど、答えを導き出そうとする。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。

教科書、教材など	「高等学校　新地理Ａ」（帝国書院） 「帝国書院編集部編　新詳高等地図」（帝国書院） 「図説地理資料　世界の諸地域ＮＯＷ２０２０（帝国書院）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5 6 7 8	１部 世界の諸地域の姿と地球的課題 １学期 中間考査 １学期 期末考査	２節　人々の生活と気候 １ 生活と気候のかかわり 熱帯　乾燥帯　温帯　亜寒帯･寒帯それぞれの気候と人々の生活 ３節　人々の生活と産業・文化 １ 生活を支える世界の農業 ２ 生活を支える世界の工業 ３ 生活と文化のかかわり	28 26	○気候の特徴と人間生活とのかかわりについて考察する。 ○気候区分の分布の特徴を考察する。 ○熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の分布や特徴を理解する。また、それぞれの地域に暮らす人々の生活について理解する。 ○農業の発達と種類について理解する。 ○先進国と発展途上国の工業について、それぞれの特徴と近年の変化を考察する。 ○宗教と民族、言語など、人びとの生活との関わりを理解する。 ○人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成 【資料活用の技能】年表や地図の作成 【思考・判断・表現】レポートの作成・発表 【知識・理解】小テストや定期考査
2	9 10 11 12	２学期 中間考査 ２学期 期末考査	３章　近隣諸国の生活･文化 １節　中国の生活・文化 ２節　韓国の生活・文化 ３節　東南アジアの生活・文化 ４節　南アジアの生活・文化 ５節　中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化	35	○日本との共通性・異質性を地理的に考察する視点や方法によって中国、韓国の生活・文化の特色を理解する。 ○世界各地、地域の人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。	
3	1 2 3	学年末考査	６節　サハラ以南のアフリカの生活・文化 ７節　ヨーロッパの生活・文化 ８節　ロシアの生活・文化 ９節　アメリカの生活・文化	16		
備考：			合計	105		

教　科　名	公民	科目名	現代社会	単位数	２　単位
対 象 学 年	第２学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	（１）現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 （２）現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的事象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	「改訂版　高等学校現代社会」（数研出版） 「新版　テーマ別資料　クローズアップ現代社会2020」（第一学習社） 「改訂版　記入整理と演習　スタディノート　現代社会」（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	第1編　私たちの生きる社会 中間考査	1章　地球環境問題 2章　資源・エネルギー問題 3章　生命をめぐる問題	5 5 4	・地球環境問題や資源・エネルギー問題といった国家を越えて地球規模で取り組む必要のある問題のほか、科学技術の進歩に伴い生じた問題を通して、現在の生活を取り巻く諸問題について考察する	観察 発表 課題 ノート 考査
	7	期末考査	4章　情報をめぐる問題	5		
2	8 9 10	第2編　現代社会と人間としてのあり方生き方 中間考査	1章　青年期と自己の形成 ①青年としてのあり方・生き方 ②先人の生き方・考え方 ③日本人としての自覚	4 8 4	・青年期の発達課題を自己の課題として認識し、生涯における青年期の意義と自己形成の課題とその克服について考察する。 ・東西及び日本の思想を通じてよく生きること、他者との関係のなかで生きることの大切さを考察する。	観察 発表 課題 ノート 考査
	11 12	期末考査	2章　現代の民主政治と政治参加の意義 ①民主主義の基本原理 ②日本国憲法と基本的人権	10 10	・日本国憲法の基本原理と政治参加の意義を理解し、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。 ・国会・内閣・裁判所の各役割や権限、課題について理解し、民主政治における個人と国家について考える。 ・世論形成及び政治参加の意義を認識し、政治参加や国民の重要な権利であると同時に義務であることに理解を深める。	観察 発表 課題 ノート 考査
3	1 2 3	学年末考査	③日本の政治機構 ④政治参加と民主政治の課題	9 8		
備考：			合計	70		

教　科　名	公民	科目名	現代社会	単位数	２　単位
対 象 学 年	第２学年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	（１）現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 （２）現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、主権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的事象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。

教科書、教材など	「改訂版　高等学校現代社会」（数研出版） 「新版　テーマ別資料　クローズアップ現代社会2020」（第一学習社） 「改訂版　記入整理と演習　スタディノート　現代社会」（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	第1編　私たちの生きる社会 中間考査	1章　地球環境問題 2章　資源・エネルギー問題	5 5	・地球環境問題や資源・エネルギー問題といった国家を越えて地球規模で取り組む必要のある問題のほか、科学技術の進歩に伴い生じた問題を通して、現在の生活を取り巻く諸問題について考察する	観察 発表 課題 ノート 考査
			3章　生命をめぐる問題	4		
	7	期末考査	4章　情報をめぐる問題	5		
	8	第2編　現代社会と人間としてのあり方生き方	1章　青年期と自己の形成 ①青年としてのあり方・生き方	4	・青年期の発達課題を自己の課題として認識し、生涯における青年期の意義と自己形成の課題とその克服について考察する。 ・東西及び日本の思想を通じてよく生きること、他者との関係のなかで生きることの大切さを考察する。	観察 発表 課題 ノート 考査
2	9		②先人の生き方・考え方	8		
	10	中間考査	③日本人としての自覚			
	11		2章　現代の民主政治と政治参加の意義 ①民主主義の基本原理	4	・日本国憲法の基本原理と政治参加の意義を理解し、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。 ・国会・内閣・裁判所の各役割や権限、課題について理解し、民主政治における個人と国家について考える。	観察 発表 課題 ノート 考査
	12	期末考査	②日本国憲法と基本的人権	10	・世論形成及び政治参加の意義を認識し、政治参加や国民の重要な権利であると同時に義務であることに理解を深める。	
3	1		③日本の政治機構	8		
	2 3	学年末考査	④政治参加と民主政治の課題	8 9		
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学Ａ	単位数	２単位
対 象 学 年	２年調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察する能力を養い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第１章　場合の数と確率　　第２章　図形の形質　　第３章　整数の性質				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている	場合の数と確率，図形の性質または整数の性質における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書、教材など	教科書　改訂版 新高校の数学Ａ（数研出版） 副教材　改訂版 新高校学習ノート 数学Ａ （数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第1章　場合の数と確率	第1節　順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	1学期中間考査				
	6		第2節　確率			
	7	1学期期末考査				
	8					
	9	第2章　図形の性質	第1節　平面図形	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	10	2学期中間考査				
	11		第2節　空間図形			
	12	2学期期末考査				
		第3章　整数の性質	整数の性質	20	整数の性質についての理解を深め，それを事象の考察に活用できるようにする。	
	1					
	2					
	3	学年末考査				
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4単位
対 象 学 年	第2学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる				
学習内容の概要	第1章　式と証明　第2章　複素数と方程式 第3章　図形と方程式　第4章　三角関数 第5章　指数関数と対数関数　第6章　微分法と積分法				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書，教材など	教科書　高等学校数学Ⅱ（数研出版），問題書 4プロセス数学Ⅱ＋B（数研出版）， 参考書　Focus Gold 数学Ⅱ＋B（啓林館）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第2章　複素数と方程式	第2節　高次方程式	4	方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。（復習）	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	第3章　図形と方程式	第1節 点と直線	10	座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
			第2節　円	8		
		１学期中間考査	第3節　軌跡と領域	6		
	6	第4章　三角関数	第1節 三角関数	11	角の概念を一般角まで拡張して，三角関数及び三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
2		１学期期末考査	第2節　加法定理	8		
	7					
	8					
	9	第5章　指数関数と対数関数	第1節　指数関数	5	指数関数及び対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
			第2節　対数関数	7		
	10	第6章　微分法と積分法	第1節　微分係数と導関数	7	微分・積分の考えについて理解し，それらの有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
3		２学期中間考査				
	11		第2節　関数の値の変化	8		
	12	２学期期末考査	第3節 積分法	11		
	1	問題演習	問題演習	55	今まで習った範囲の復習・演習を行う。	
	2	学年末考査				
	3					
備考：			合計	140		

教　科　名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	3単位
対 象 学 年	第2学年　総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　複素数と方程式　　第2章　図形と方程式 第3章　三角関数　　第4章　指数関数・対数関数 第5章　微分法と積分法				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書，教材など	教科書　改訂版 新高校の数学Ⅱ（数研出版） 副教材 改訂版 新高校学習ノート 数学Ⅱ （数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第1章　複素数と方程式	第1節　式の計算	10	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。方程式についての理解を深め，数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5	１学期中間考査	第2節　複素数と方程式	17		
	6		第3節　式と証明	2		
	7	第2章　図形と方程式 １学期期末考査	第1節　点と直線	13	座標や式を用いて，直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し，　その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
2	8		第2節　円	10		
	9					
	10	第3章　三角関数 ２学期中間考査	三角関数	15	角の概念を一般角まで拡張して，三角関数及び三角関数の加法定理について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	11	第4章　指数関数と対数関数	第1節　指数関数	9	指数関数及び対数関数について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	12	２学期期末考査	第2節　対数関数	8		
3	1	第5章　微分法と積分法 学年末考査	第1節　微分法	13	微分・積分の考えについて理解し，それらの有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
	2		第2節　積分法	8		
	3					
備考：			合計	105		

教　科　名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対 象 学 年	第2学年　特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　平面上のベクトル　　第2章　空間のベクトル 第3章　数列				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	ベクトル，数列に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列において，事象を数学的に表現･処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書，教材など	教科書　高等学校数学B（数研出版），問題書 4プロセス数学Ⅱ＋B（数研出版）， 参考書　Focus Gold 数学Ⅱ＋B（啓林館）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	第1章　平面上のベクトル	第1節　ベクトルとその演算	10	ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	6	１学期中間考査	第2節　ベクトルと平面図形	9		
		１学期期末考査				
	7	第2章　空間のベクトル		14	ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
2	8 9 10 11	第3章　数列 ２学期中間考査	第1節　等差数列と等比数列	10	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
			第2節　いろいろな数列	6		
	12	２学期期末考査	第3節　数学的帰納	7		
	1	問題演習	問題演習	14		
3	2 3	学年末考査				
備考：			合計	70		

教　科　名	数学	科目名	数学B	単位数	2単位
対 象 学 年	2年　進学公務員類型	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章　平面上のベクトル　　第2章　空間のベクトル 第3章　数列				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	ベクトル，数列に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的･発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列において，事象を数学的に表現･処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習，復習の状況，課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する

教科書，教材など	教科書　高等学校数学B（数研出版），問題書 ポイントノート数学B（数研出版）， 授 業 形 態　一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4	第1章　平面上のベクトル	第1節　ベクトルとその演算	10	ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	考査 授業取組 課題 ※以下同じ
	5					
	6		第2節　ベクトルと平面図形	9		
		１学期中間考査				
		１学期期末考査				
	7	第2章　空間のベクトル		14	ベクトルの基本的な概念について理解し，その有用性を認識するとともに，事象の考察に活用できるようにする。	
2	8	第3章　数列	第1節　等差数列と等比数列	10	簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し，それらを事象の考察に活用できるようにする。	
	9					
	10	２学期中間考査				
	11		第2節　いろいろな数列	6		
	12	２学期期末考査	第3節　数学的帰納	7		
	1	問題演習	問題演習	14		
3		学年末考査				
	2					
	3					
備考：			合計	70		

教　科　名	理科	科目名	物理	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年　特進	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに，物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	・力と運動　　・熱　　・波				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表 意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題
教科書、教材など	東京書籍『改訂 物理』(物理308)			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	・剛体にはたらく力のつり合い	・力のつり合いと合成・分解 ・力のモーメント	９	・大きさのある物体のつり合いについて理解する。 ・平面内で剛体に働く力と力のモーメントがつり合う条件を理解する。	活動 実験レポート 板書 発表 宿題 考査の成績を総合して評価
	5	・さまざまな運動①～平面上の運動と放物運動から～	・平面上の運動 ・放物運動	９	・平面内の運動を表す変位，速度，加速度がベクトルで表されることを理解する。また，平面内の運動の合成速度，・相対速度について理解する。 ・斜方投射された物体の運動について理解する。	
	6	・さまざまな運動②～円運動と万有引力～	・円運動 ・慣性力 ・万有引力	１２	・円運動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 ・慣性力，および円運動での遠心力について理解する。 ・万有引力による物体の運動の規則性を理解する。また、ケプラーの法則を学び，惑星の運動に関する法則を理解する。万有引力の位置エネルギーについて理解する。	
	7	・さまざまな運動③～単振動～	・単振動	６	・単振動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。	
2	8	・運動量	・運動量と力積	4	・運動量と力積がベクトルで表される量であり，物体の運動量の変化が物体に働く力積に等しいことを理解する。	
	9		・運動量保存の法則	１０	・物体の衝突や分裂における運動量の保存について理解する。	
	10	・気体分子の運動と圧力	・気体の性質 ・気体分子の熱運動	１０	・気体分子の運動と圧力の関係を理解する。 理想気体について，ボイルの法則やシャルルの法則を含めた気体の状態方程式を理解する。	
	11	・気体の状態変化	・気体の状態変化 ・熱機関と熱力学第２法則	１０	・気体の状態変化における熱，仕事及び内部エネルギーの関係について理解する。 ・熱力学第一法則を理解する。 ・熱力学第二法則について理解する。	
	12	・波の性質	・波の表し方 ・波の伝わり方	１０	・波の伝わり方とその表し方について理解する。 ・ホイヘンスの原理，反射・屈折及び屈折率について理解する。また，波の表し方として，波の式及び位相について理解する。	
3	1	・音	・音の性質 ・ドップラー効果	8	・音の干渉，回折，及び屈折について理解する。また，いろいろな楽器の原理について統一的に理解する。 ・音のドップラー効果について理解する。	
	2	・光	・光の伝わり方 ・光の回折と干渉	１０	・中学校での学習を発展させ，光の伝わり方について理解を深める。 ・光の反射，屈折，分散，偏光，速さ，波長などについて，観察，実験を通して理解する。 ・ヤングの実験，回折格子及び薄膜の干渉などの観察，実験を通して，光の回折，干渉，光路長，反射による位相のずれについて理解する。	
	3		・レンズと鏡	7	・鏡とレンズの幾何光学的な性質として，凹面鏡や単一レンズの焦点の存在や光の進路の規則性について理解する。	
備考：			合計	105		

教　科　名	理科	科目名	生物	単位数	3単位
対 象 学 年	第2学年　特進	履修形態	選択授業	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに，生物学の基本的な概念や原理･法則の理解を深め，科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	生命現象を支える物質の働きについて考察，実験などを通して探究し，タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し，生命現象を分子レベルでとらえる。生物の生殖や発生について観察，実験などを通して探究し，動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物･現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物･現象についての基本的な概念や原理･法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題
教科書、教材など	生物　310　「改訂版　生物」（数研出版） 生物基礎問題精講（旺文社）			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	第1章　細胞と分子 1. 生体を構成する物質 2. タンパク質の構造と性質	生物基礎で学習した内容の復習と応用	5	細胞を構成する物質について学習する。 特に，タンパク質については，基本的な構造を学習したうえで，酵素など，その立体構造と生命活動において果たすはたらきとの関連を理解する。 次に，細胞小器官や細胞骨格，生体膜など，細胞の内部構造について学習する。さらに，物質輸送や情報伝達・認識にかかわるタンパク質について学習する。 これらの学習を通じて，細胞活動においてさまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査 3. 酵素のはたらき 4. 細胞の構造	構造式、化学式、化学反応式など基本的な内容の理解と応用	5		
	6	5. 物質輸送とタンパク質 6. 情報伝達・認識とタンパク質		5 5		
		第2章　代謝	原形質流動の観察	5		
	7	1. 代謝とエネルギー 期末考査		5 5		
	8	2. 呼吸と発酵		5		
2	9	3. 光合成	光合成色素の抽出とクロマトグラフィーによる分離	5	呼吸・光合成について，その詳細なしくみを理解する。呼吸においては，各過程の反応を学習し，その際，有機物が分解され，ATPが合成されることを理解する。 光合成においては，各過程の反応を学習し，光エネルギーが化学エネルギーに変換されること、窒素同化の概要についても理解する。 DNAの構造・複製・タンパク質合成について，その詳細なしくみを理解する。 遺伝子を扱ったバイオテクノロジーについて学習し，その原理と有用性を理解する。染色体に遺伝子が存在することを学習したうえで，有性生殖では，減数分裂と受精によって多様な遺伝子の組み合わせが生じることを理解する。	
	10	4. 窒素同化 第3章　遺伝情報の発現 1. DNAの構造と複製		5 5		
	11	2. 遺伝情報の発現 中間考査	DNA 抽出実験の復習	7		
	12	3. 遺伝子の発現調節		6		
	1	4. バイオテクノロジー 期末考査	核酸の構造式と性質 最新技術の紹介	7		
	2	第4章　生殖と発生 1. 遺伝子と染色体		5		
	3	2. 減数分裂と遺伝情報の分配				
3		3. 遺伝子の多様な組み合わせ 4. 動物の配偶子形成と受精 動物の配偶子形成，受精 5. 初期発生の過程 6. 細胞の分化と形態形成 学年末考査 7. 植物の配偶子形成と発生		5 5 5 5 5	次に，動物の配偶子形成･受精と初期発生の過程を学習する。 また，細胞の分化や形態形成のしくみについて，誘導現象を中心に理解する。 前後軸形成のしくみと形態形成を調節する遺伝子について学習する。 植物の配偶子形成・受精と胚発生の過程を学習し，器官分化における遺伝子のはたらきについて理解する。	
備考：３年特進、選択生物			合計	105		評価テスト

教　科　名	理科	科目名	化学基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年特進	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を育てるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	・物質の構成と化学結合・物質の変化				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題

教科書、教材など	「改訂版　化学基礎」（数研出版）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	・化学と人間生活	・人間生活の中の化学 ・化学とその役割	6	・化学が，人類の発展にどのように寄与してきたか，そして，現在の人間生活にどのように関わり，どんな恩恵を受けているかを確認し，今後の我々の生活環境を乱さないようにして発展させていくにはどうすればよいかを理解する。	活動 実験レポート 板書 発表 宿題 考査 の成績を総合して評価
		・物質の構成	・純物質と混合物 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動		・物質は純物質と混合物とに分類できることを理解する。あわせて，混合物の分離・精製には種々の方法があることを理解する。 ・物質は元素から成り，元素は元素記号で表されることを理解する。物質を構成する元素の種類によって，単体や化合物が存在し，また、同素体をもつものがあることも理解する。	
	5	・物質の構成粒子	・原子とその構造 ・イオン	7	・物質には固体・液体・気体の３つの状態があることを確認し，相互の変化には、分子の熱運動がもとになっていることを理解する。 ・原子と，イオンや原子が種々の方法で結合した物質について，その構造や表しかた，それらの関係を学ぶ。	
	6	・粒子の結合	・イオン結合 ・分子と共有結合 ・分子間にはたらく力	7	・イオンは希ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解し，多原子イオンの種類や化学式の表しかたを学ぶ。	
	7		・共有結合結晶 ・金属結合	6	・イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 ・原価電子を共有するという方法で結びつくしくみを理解し、分子式をはじめ電子式や構造式を学ぶ。	
2	8	・物質量と化学反応式	・原子量・分子量・式量	2	・電気陰性度を理解し，極性分子と無極性分子を学ぶ。	
	9		・物質量	7	・有結合結晶について，性質を学ぶ。 ・金属結合を理解し，身の周りでの利用を学ぶ。	
	10		・化学反応と物質量	7	・分子量や式量の定義を学ぶ。 ・物質量の概念を学ぶ。また、パーセント濃度やモル濃度の定義を学ぶ。さらに、固体の溶解度の表し方と溶解度曲線を理解し，溶解量や再結晶における析出量の計算方法を身につける。	
	11	・酸と塩基の反応	・酸・塩基 ・水の電離と水溶液のｐH ・中和反応 ・塩	7 6	・酸や塩基の定義2つを学び，酸や塩基の分類法を理解する。 ・酸性や塩基性の強さをpHにより表すことを理解する。 ・中和のしくみや量的関係を理解する。滴定の操作、濃度の計算を実験を通して理解し，滴定曲線と指示薬の関係も理解する。	
3	12	・酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応	5 6	・塩の定義と分類の方法，塩の水溶液の性質を理解する。 ・酸素や水素、電子の授受、酸化数により酸化・還元を理解する。 ・酸化剤や還元剤のはたらきと，酸化還元反応の量的関係を理解する。	
	1		・酸化還元反応の利用 ―電池・金属の製錬―	4	・金属のイオン化傾向が、金属の化学的性質と密接に関係していることを学ぶ。 ・電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び，電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。 鉱石から得る製錬の手法について学ぶ。	
	2					
	3					
備考：			合計	７０		

教　科　名	理科	科目名	地学基礎	単位数	３単位
対 象 学 年	第2学年　特進	履修形態	選択授業	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，地学的に探究する能力と態度を育てるとともに，地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	地学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，地学的な見方や考え方を養う。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表 意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題

教科書、教材など	地基３０８　「地学基礎　改訂版」　啓林館 センサー地学基礎　改訂版
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1		第１部 固体地球とその変動 第１章 地球 第１節 地球の概観 第２節 地球の内部構造 中間考査 第２章 活動する地球 第１節プレートテクトニクスと地球の活動 第２節 地震 期末考査	地球の概観について学び，その内部構造について理解する。 プレートと地球の活動について理解し，地震や火山活動，火成岩の形成について学ぶ。 探究活動の仕方について学ぶ	3 3 3 3 3	・地球の形の特徴と大きさについて理解させる。 ・地球の特徴に興味をもち，地球の形と大きさ，地球の内部構造などを調べようとする。 ・地球内部の層構造とその状態を理解させる。 ・プレートの分布と運動，およびプレート運動に伴う大地形の形成について興味をもち，プレート運動に関連する火山活動や地震の発生の仕組みについて調べようとする。	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
2		第３節 火山活動と火成岩の形成 探究活動の進め方 探究活動 中間考査 第２部 移り変わる地球 第１章 地球史の読み方 第１節 堆積岩とその形成 第２節 地層と地質構造 期末考査	堆積岩とその形成や地層と地質構造について学び，地球の歴史の組み立てについて理解する。	3 3 3 3 3 3 3	・地表の変化の様子に興味をもち，堆積岩や地層，化石について調べようとする。 ・堆積岩がどのように形成されたのかを考えることができる。	
3		第３節地球の歴史の区分と化石 第２章 地球と生命の進化 第１節 先カンブリア時代 第２節 顕生代 学年末考査	古生物の変遷と地球環境の変化について理解し，先カンブリア時代や顕生代について学ぶ。	3 3 8	化石を手がかりにして地球の歴史について考えることができる。	
備考	合計			70		

教　科　名	理科	科目名	化学基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	2年総合	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，化学的に探究する能力と態度を育てるとともに，化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	１．化学が物質を対象とする科学であることや化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 ２．原子の構造，電子配置と周期律の関係及び，化学結合のしくみについて理解できる。 ３．化学反応の量的関係，酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できるとともに日常生活や社会と関連付けて考察できる。 ４．上記の目標を達成するために探究活動を行い，学習内容を深めるとともに，化学的に探究する能力を高める。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表　意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題
教科書、教材など	[化基314]改訂　新編化学基礎			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	序編　化学と人間生活	・物質について学ぶ「化学」 ・文明は金属とともに ・セラミックス ・プラスチック ・繊維 ・リサイクルと環境 ・食料の確保 ・食品の保存 ・洗剤 ・地球環境と物質の利用	6	・化学が，人類の発展にどのように寄与してきたか，どんな恩恵を受けているかを確認し，今後の我々の生活環境を発展させていくにはどうすればよいかを理解する。 ・物質は純物質と混合物とに分類できることを理解する。あわせて，混合物の分離・精製には種々の方法があることを理解する。 ・物質は元素から成り，元素は元素記号で表されることを理解する。 ・物質には固体・液体・気体の３つの状態が分子の熱運動がもとになっていることを理解する。 ・原子と，イオンや原子が種々の方法で結合した物質について，その構造や表しかた，それらの関係を学ぶ。	活動 実験レポート 板書 発表 宿題 考査の成績を総合して評価
	5	1編　物質の構成 1章　物質の成分と構成元素 中間考査	・物質の成分 ・物質の構成元素 ・物質の三態	7	・イオンは希ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解。 ・イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。	
	6	2章　原子の構造と元素の周期表	・原子の構造 ・電子配置と周期表	7	・原価電子を共有するという方法で結びつくしくみを理解し、分子式をはじめ電子式や構造式を学ぶ。 ・電気陰性度を理解し，極性分子と無極性分子を学ぶ。 ・有結合結晶について，性質を学ぶ。	
	7	期末考査 3章　化学結合	・イオンとイオン結合 ・分子と共有結合 ・金属と金属結合	6	・金属結合を理解し，身の周りでの利用を学ぶ。 ・分子量や式量の定義を学ぶ。	
2	8 9 10		・化学結合と物質の分類	2	・物質量の概念を学ぶ。また、パーセント濃度やモル濃度の定義を学ぶ。さらに、固体の溶解度の表し方と溶解度曲線を理解し，溶解量や再結晶における析出量の計算方法を身につける。	
	11	2編　物質の変化 1章　物質量と化学反応式 中間考査	・原子量・分子量・式量 物質量 ・溶液の濃度 ・化学反応式と量的関係	7 7 7	・酸や塩基の定義2つを学び，酸や塩基の分類法を理解する。 ・酸性や塩基性の強さをpHにより表すことを理解する。 ・中和のしくみや量的関係を理解する。滴定の操作、濃度の計算を実験を通して理解し，滴定曲線と指示薬の関係も理解する。	
	12	2章　酸と塩基	・酸と塩基	6	・塩の定義と分類の方法，塩の水溶液の性質を理解する。	
3	1		・中和反応と塩 ・中和滴定	5	・酸素や水素、電子の授受、酸化数により酸化・還元を理解する。 ・酸化剤や還元剤のはたらきと，酸化還元反応の量的関係を理解する。	
	2	期末考査 3章　酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応	6 4	・金属のイオン化傾向が、金属の化学的性質と密接に関係していることを学ぶ。 ・電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び，電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。	
	3	学年末考査	・金属の反応性			
備考			合計	70		評価ﾃｽﾄ ノート

教　科　名	保健体育	科目名	体育	単位数	３単位
対 象 学 年	第2学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わ ことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育				
学習内容の概要	１学期…体つくり運動、バドミントンを行なう。 ２学期…バスケットボール、サッカー、バレーボールを行なう。 ３学期…ダンスを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。
教科書、教材など				
授 業 形 態	２クラス合同での授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4	体育理論	体育理論	5	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
	5		基礎体力の測定	8	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
		体つくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	7	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
	6		体操・補強運動	5	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。	
	7		体ほぐし運動 体育理論	5		
		球技	バドミントン	１５	・サービスでは狙った場所に打てること。練習やゲームで相手や状況に応じて効果的に打ち分ける事が出来る。ラリーの中で味方の動きに合わせてコートの空いている場所をカバー出来る。	
2	8	期末考査				
	9		バスケットボール	１５	・個人技能でドリブル、パス、シュートの基本動作を身につける。 ・ゲームの攻防で状況に応じたプレーを選択して行っている。	
	1０	期末考査	サッカー	１５	・パス、ドリブル、シュートの復習をする。 ・安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。	
	1１		バレーボール	１５	・基本技術の確認。ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーできるようになる。ブロック技術の習得。相手の攻撃の変化に応じて仲間とタイミングを合わせて守備位置を移動出来る。	
3	1２	球技				
	1	学年末考査	ダンス （現代的なリズムのダンス）	１５	・リズムの特徴をとらえたスッテプや体幹部を中心とした弾む動きで全身で自由に踊ることができる ・選んだリズムや音楽の特徴をとらえて踊ることが出来る。	
	2					
	3					
備考：			合計	105		

教　科　名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対 象 学 年	第　2　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について、理解を深めるようにし生涯を通じて自らの健康を適切に管理改善していくための資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	・思春期と健康。・性への関心、欲求と性行動。・妊娠、出産と健康。・避妊法と人工妊娠中絶。 ・結婚生活と健康。・中高年期と健康。・医薬品とその活用。・医療サービスとその活用。 ・保健サービスとその活用。・さまざまな保健活動や対策。・大気汚染と健康。・水質汚濁、土壌汚染と健康。 ・働くことと健康。				

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする。	現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え判断し、それらを表している。		現代社会と健康、生涯を通じる健康、社会生活と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。

教科書、教材など	・最新高等保健体育・最新高等保健体育ワーク
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4	思春期と健康	・思春期の体の特徴とともに、行動面の特徴を知る。	2	・思春期の体と心の健康について理解させる。思春期の心の発達に関わる健康問題が説明できる。	授業中の態度、ノート、ワーク提出、期末試験等の点数で評価をする。
		性への関心､欲求と性行動	・男女の性意識の違いを知る。	2	・性意識の男女差と性的欲求及び、自分だけの問題では無いことを理解する。	
	5	妊娠・出産と健康	・妊娠出産期に周囲が何を注意すべきか理解する	2	・妊娠、出産の過程における健康課題について説明できる。妊　娠､出産期に活用できる母子保健サービスをあげる事が出来　る。	
	6	避妊法と人工妊娠中絶	・男女それぞれの立場から避妊を考え、人工妊娠中絶が大きな負担になることを学ぶ。	3	・家族計画の意義と適切な避妊法について説明が出来る。人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響について説明出来る。	
	7	結婚生活と健康 期末テスト	・健康な結婚生活を営むた　めに、心身の発達からみ　た留意点や健康づくり　について学ぶ。	2 2 1	・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。結婚生活　を健康的に送る必要な考え方や行動をあげる事が出来る。	
2	8	中高年期と健康	・中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みについて学ぶ	2	・年を取ることにともなう心身の変化には、どのようなものがあるか説明できる。結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることが出来る。	
	9	医薬品とその活用	・医薬品の役割を理解し正しい使用法や副作用を学ぶ。	2	・医薬品の正しい使用法について説明できる。医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。	
	10	医療サービスとその活用。	・医療機関の役割や医療保険の仕組みについて学ぶ。	2	・さまざまな医療機関の役割について説明できる。医療サービ　スを受けるときの留意点をあげる事ができる。	
	11	大気汚染と健康	・大気汚染の健康影響を原因物質の視点から考える。	2	・大気汚染の原因とその健康影響を説明できる。地球規模の環境問題について例をあげて説明できる。	
	12	水質汚濁､土壌汚染と健康	・水質汚濁、土壌汚染の健康影響を原因物質の視点から考える。	1	・水質汚濁の原因とその健康影響を説明できる。土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。	
	1	期末テスト		2		
	2	働くことと健康		2		
3	3	働く人の健康づくり 学年末テスト	・働くことと健康が相互に影響していることを知り、働く人の健康問題がどのように変わってきたか学ぶ。	1	・働くことと健康の関わり、働く人の健康問題について主体的に考えることができる。 ・	
備考：			合計	30		

教　科　名	保健体育	科目名	専攻実技	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	運動の合理的，計画的な実践を通して，専門的な知識・理解を深めるとともに技能を高め，運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし，自己の状況に応じて体力の向上を図る能力 を育て，公正，協力，責任，参画などに対する意欲を高め，生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	１学期…トレーニング実技、卓球を行う。 ２学期…校外学習、ソフトボールを行う。 ３学期…バスケットボール、ゴルフを行う。 各学期でスポーツ理論を行う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習を主体的に取り組もうとする。	豊かなスポーツライフの現実を目指して、自己や仲間の課題解決に応じた運動の取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動の計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現するための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けるとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。	運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。	授業中の取り組み、授業内テストにて判断する。
教科書、教材など	なし			
授 業 形 態	２クラスの合同授業（男女）			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	スポーツ理論	トレーニング計画 トレーニング理論	7	・運動の特性に応じたトレーニング方法、トレーニング計画の知識を身に付け、豊かなスポーツライフをおくる。	
	5	トレーニング実技	持久力・走力・バランス感覚	10	・専門的なトレーニング、最新のトレーニング方法を実際に行い、自身や仲間の体力を高めるための運動を合理的に行えるようにする。	
	6	球技	卓球	20	・サービス、ストローク、ドロップ、スマッシュの復習を行う。	
	7					
2	8	校外実習	グラウンドゴルフ カヌー	4 4	・運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、郷土発祥のスポーツや自然の豊かさなどの環境・文化を学ぶ。	
	9	球技	ソフトボール	20	・4つの基礎を使い分けながら、状況に応じた攻防を展開する。 ・状況に応じたバット操作と打球に応じた進塁ができる。 ・安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防を展開することができる。	
	10					
	11	球技	バスケットボール	20	・ドリブル、パス、シュートの復習を行う。 ・状況に応じたボール操作と仲間と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開する。	
	12					
3	1	球技	ゴルフ	20	・クラブの握り方、スタンス、スイングの修得を行う。 ・状況に応じたクラブの使い分けができる。 ・紳士のスポーツとしてのルールやマナーを学ぶ。	
	2					
	3					
備考：			合計	105		

教　科　名	選択科目	科目名	スポーツ理論	単位数	１単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	アスリートとしての食事・コンディショニングを学び、自身の競技につなげ食事とコンディショニングから競技力向上を目指すことを目標とする。				
学習内容の概要	1学期…解剖学・運動生理学といった生物学・科学的な分野から体の構造知り、競技につなげる。 ２学期…コンディショニングのための栄養・競技力向上のための栄養を学ぶ。 ３学期…競技力向上のための栄養・世代別に見るスポーツ栄養との考え方とかかわり方を学ぶ。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	アスリートとしての食事方法や食事内容・コンディショニングに関心を持ち意欲的に学ぼうとしている。 また、学んだことを実践しようとしている。	自身の食事内容・摂取・コンディショニングの現状を把握し、分析をする。ブウ席結果を学習した内容と照らし合わせ今後に向けての改善ができるようにする。		アスリートとしての食事方法や食事内容・コンディショニングの知識を深め、自身の現状と照らし合わせ学習内容を理解する。
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。
教科書、教材など	スポーツ栄養学（ベースボール・マガジン）　DVD			
授 業 形 態	健康スポーツコース２クラス合同			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
１	４	オリエンテーション	・授業内容説明	１	・授業の流れや内容、その目的やねらいを知る。	
		特別実習	筋肉の構造 筋肉の種類・性質 ウォーミングアップ 身体ケアについて	１２	・人体の骨、骨格、筋肉の場所、名称を知る。 ・スポーツ（競技）を行なう時にどのような働きをするかを理解する。 ・筋肉の構造や種類、性質を知る。 ・筋肉の構造や性質を理解したうえで、競技にどのような働きをするか、またケアの方法やトレーニング方法などを知る。	
	５					
	６					
	７	期末考査				
２	８	競技力向上のための栄養	サプリメントの摂取	２	・サプリメント使用の目的と栄養素別の摂タイミングを知る。	
			水分補給	２ ２	・脱水が起こる仕組みと、自発的脱水予防のための正しい水分補給の方法を知る。	
	９		試合前日の食事 試合当日の食事 減量	３ ３ １	・試合前日の食事の注意点を知る。 ・試合前日の食事の注意点を知る。 ・筋肉量を維持したまま減量をする食事法を知る。	
	１０		筋肉増強 貧血と予防策	２	・筋肉の破壊を抑え、増強させるための食事法を学ぶ。 ・貧血が起こる仕組みとその予防策を知る。	
		期末考査				
	１１		ケガの予防と回復	２	・身体づくりとケガの予防、回復のための栄養との関係を知る。	
３	１２ １ ２ ３	スポーツ傷害 学年末考査	慢性的なスポーツ傷害と、急性なスポーツ外傷 筋、健の主なスポーツ傷害 関節、靭帯の主なスポーツ傷害 骨、軟骨の主なスポーツ傷害	２ ２ ２	・競技中やトレーニング中に起こるケガや体のトラブルについてを学ぶ。	
備考：			合計	３５		

教　科　名	芸術	科目名	音楽Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	音楽の活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	Ａ.表現　１歌唱　２器楽　３創作 Ｂ.鑑賞　１鑑賞				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
	音楽を愛好し、音楽文に関心を持ち、個性豊かに意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとしている。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り、個性豊かに創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち、個性豊かに創造的な表現をするための技能を身につけている。	音楽文化に対する理解を深め、そのよさや美しさを主体的に味わう。
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント	課題プリント 学習プリント
教科書、教材など	ＭＯＵＳＡ２（教育芸術社）			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	ハーモニーを楽しもう（１）（Ａ表現・歌唱） ハーモニーを楽しもう（２）（Ａ表現・歌唱）	ハナミズキ 赤とんぼ、青いベンチ 上を向いて歩こう フニクリフニクラ 早春賦	6 8	・責任を持って自分の担当するパートを歌っている ・ハーモニーの響きを感じながら歌っている。 ・歌詞の意味をよく理解して歌うことができる。 ・グループで協力してアンサンブル活動に取り組んでいる。・ハーモニーを感じ取り、責任を持って自分のパートを歌っている。それぞれのパートの特性を理解して演奏することができる。・様々な形態によるコーラスの独特な表現を聴きとっている。	
	6 7	リズム・アンサンブルを楽しもう（Ａ表現・器楽）（Ｂ.鑑賞）	ソルフェージュ ＤＯＴコンポジション 世界の諸民族の音楽 The Basics of Music（副教材）	１２	・リズム・アンサンブルに興味をもち、楽しんで演奏している。・リズムを理解し、演奏に結びつけようとしている。 ・リズムだけでも音楽が成り立つことを理解しその構成のおもしろさを感じ取りながら演奏することができる。 ・様々なパーカッション・アンサンブルを聴くことにより、リズム・アンサンブルのもつ独自の芸術性に気づくことができる。	観察
2		キーボードアンサンブルに挑戦（Ａ表現・器楽）	スタジオジブリメドレーアレンジしよう ギター/キーボード・コード表	１２	・鍵盤楽器に興味をもち、各パートの役割について理解している。・音色の組み合わせを考え、効果的な奏法を工夫している。・各パートの特徴を理解し、自分たちでアレンジして演奏することができる。・さまざまなアレンジを聴き、その特徴を理解することができる。	聴取 実技試験 学習プリント
3	8 9 10 11 12	ギターに挑戦（独奏、ソロ、アンサンブル）（Ａ表現・器楽）	糸 木星	１２	・歌いながら、伴奏楽器としてギターを演奏する。また、ソロで演奏したり、アンサンブルとして楽しんだりしている。・効果的なアレンジやハーモニー、歌詞の意味などを理解して演奏している。 ・ポピュラー音楽の歴史について理解し、その中でギターの役割について考えることができる。	課題プリント
	1 2 3	日本の歌に挑戦（Ａ表現・歌唱） グループアンサンブルを楽しもう（Ａ表現・歌唱）	赤とんぼ 椰子の実	１０ １０	・ジャンルの異なるいろいろな日本の歌に興味を持って取り組んでいる。・言葉の歌詞の意味を深く探求し感じながら歌う。・日本語の扱い方を鑑賞を通して比較することができる。 ・グループで協力して音楽を創造しようとしている。 ・発想力や個性を大切にして活動しようとしている。 ・各グループのオリジナリティーを十分に表現することができる。	
備考：			合計	70		

教　科　名	芸術	科目名	美術Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	生徒の個性を活かした創造的な活動を行い、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、表現と鑑賞の能力を伸ばす。美術文化についての理解を深め尊重する態度を養う。				
学習内容の概要	（Ａ）表現（１）絵画・彫刻（２）デザイン（３）映像メディア表現 （Ｂ）鑑賞				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
	鑑賞を通して美術文化に関心を持ち、主体的に多様な表現方法を研究し、自分の作品作りに取り入れようと努力する。	目的に向かって個性的な発想や構想を重視し、美しさや機能性を追及している。	技能を磨き、表現したいイメージを具現化させるよう努力する。	日本の伝統文化などを通して作品の持つ美しさや精神性を理解しようとする。
評価方法	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。提出作品。	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。提出作品。	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。提出作品。	授業中の取り組む姿勢。ワークシート。

教科書、教材など	高校美術１（高村出版）
授 業 形 態	一斉授業　選択授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	オリエンテーション	あなたにとっての美術とは	2	これまでの美術との関わりをふりかえり、これからの学習内容や取り組み方を理解する。	
		Ａ表現 絵画（デッサン）	作品制作 相互鑑賞	3	石こう、静物デッサンを通して対象物の捉え方を学ぶ。	観察 作品
	5	Ａ表現 彫刻	作品制作 相互鑑賞	3	自画像を彫り道具の使い方を習得。造形の楽しさを知る。	観察 作品
		Ａ表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	4 3	透視図法から、遠近法を理解する。 ポスター制作によって。目的のための構成を学ぶ。	観察 作品
	6			4	箱の制作で、構造を工夫したり、美しさを考える。	観察 作品
		Ａ表現 デザイン 映像	作品制作 相互鑑賞	6 2	パラパラマンガ　モザイク モザイク	観察 作品
		Ａ表現 デザイン	作品制作	4	ＣＤジャケット	観察 作品
	7	Ａ表現 絵画	作品制作 相互鑑賞	3	見えないものを描く。感覚を表現する方法を学ぶ。	観察
	8				童話など、物語を絵で表現する。	観察 作品
2	9		作品制作 相互鑑賞	6	個性を伸ばし、独自の表現で作品を作る。	観察 作品
	10	Ａ表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	6	開発商品を考え、企画書、サンプル、広告などを制作。	観察 作品
	11	Ａ表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	6	日本の伝統文化を知り、現代との比較やアレンジする。	観察 作品
3	12	Ａ表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	4	粘土で和菓子を作る。	観察 作品
	1	Ａ表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	4	和菓子のパッケージ	観察 作品
	2	Ａ表現 デザイン	作品制作 相互鑑賞	6	未来予想図	観察 作品
	3	Ｂ表現 鑑賞	作品制作 相互鑑賞	4	鑑賞能力を高め、関心のある作品を発表する。	観察
備考：			合計	７０		

教　科　名	芸術	科目名	書道Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	選択必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	書道の活動を通して、生涯にわたって書道を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力や自己表現力を伸ばし、書道文化や伝統についての理解を深める。				
学習内容の概要	Ａ.表現　１漢字仮名交じりの書　２漢字の書　３仮名の書 Ｂ.鑑賞　１書の美しさと表現効果　２中国及び日本等の文化				

	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力
科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	書道を愛好し、書への関心を持ち、実用的な表現や芸術的な表現の技術を積極的に身につけようとしている。	それぞれの古典の特徴をとらえ、習得した技法を自己の表現活動に生かしている。	基本的・発展的な書の技能を身につけ、目的や用途に応じた創意工夫のある表現ができる。	書の美の多様性･書の文化や伝統を理解し､その良さや美しさを味わうことができる。また､自身や他者の作品を観察し､その特性を的確に捉えることができる。
評価方法	取り組み状況・態度 学習成果（提出作品） 学習プリント	取り組み状況・態度 学習成果（提出作品）	観察・聴取 実技試験 学習プリント	態度 学習プリント

教科書、教材など	書道Ⅱ（東京書籍）　学習プリント
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4 5	漢字仮名まじりの書の学習(1)	1漢字の古典を生かした表現 2仮名の古典を生かした表現	12	・自己の意図や狙いを達成するために、漢字や仮名の古典を生かした表現を工夫する。 ・自らの思いや感動を表現する語句を選び創作する。 ・用具・用材の種類や扱い方によって表現が変化することを理解する。	観察 提出作品 学習プリント
2	6 7 8 9 10	漢字の書の学習	1篆書の臨書と鑑賞 2草書の臨書と鑑賞 3隷書の臨書と鑑賞 4楷書・行書の臨書と鑑賞 5漢字作品の創作	8 8 8 10	・漢字の書の変遷について学ぶ ・漢字の古典の鑑賞により、多用な表現を理解する。また鑑賞力を深める。 ・篆書・草書・隷書・楷書・行書の臨書学習により、基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ。 ・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 ・さまざまな漢字の古典を鑑賞し、自らの鑑賞力を深める ・漢字の歴史的意味とその重要性を学ぶ ・自らの思考や感動を表現できる語句を選び、各書体の特徴を理解し、表現方法を工夫し、作品を制作する。	
3	11 12	仮名の書の学習	1仮名の美の展開 2臨書と鑑賞 3連綿・行書き・散らし書き	8	・仮名の書の変遷について学び、日本の伝統美を理解する	
	1 2 3	漢字仮名まじりの書の学習(2)	漢字仮名交じり書の学習 表現を楽しもう	16	・自らの思いや感動を表現する語句を選び、創作する ・用具・用材の扱い方によって表現が変化することを理解する ・自己の意図や狙いを達成するために、漢字や仮名の古典を生かした表現を工夫する ・全体構成を考えた表現を身につける	
備考：			合計	70		

教　科　名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	３単位
対 象 学 年	第２学年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
学習内容の概要	・英語を通じて，平和・音楽，異文化理解，科学技術，紛争と子ども，日本文学，世界遺産，芸術，動物・心理，教育・生き方，ジャーナリズムなどの話題に関する情報や考えなどを的確に理解する。 ・英語を通じて，平和・音楽，異文化理解，科学技術，紛争と子ども，日本文学，世界遺産，絵画・芸術，動物・心理，哲学・生き方，ジャーナリズムなどの話題に関する自分の考えや概要などを適切に伝える。 ・言語の使用場面や目的に合わせて，語彙・文法事項を適切に運用する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。また、聞き手に伝わるように適切に音読することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・小テスト （音読テスト、writingテスト、など） ・定期考査（中間考査、期末考査）	・小テスト （対話テストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	・小テスト （対話テストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）

教科書、教材など	Genius English Communication Ⅱ（大修館書店）・教科書付属「学習ノート」　・新ユメタン１
授 業 形 態	一斉

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
	4 5	Lesson1 Hanamizuki	・ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワークシート ・本文要約 ・文法事項の確認 ・本文音読	１３	・ハナミズキの由来と歌の意味についての説明を聞くこと、読むことで理解することができる。 ・Itの用法を理解し、それを使って自己表現できる。	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	6	Lesson2 *Undokai* in Malawi Lesson3 Nature Technology		１３	・日本の伝統的な学校行事である「運動会」が発展途上国の学校で開催され，現地の教育の活性化につながった様子について詳しく記した文章を読み，自国文化を海外に伝え交流を図る意義について考える。 ・受動態を理解し、それを使って自己表現できる。 ・自然から学ぶ科学技術および環境問題に関する話を聞こと、読むことで理解することができる。 ・複合関係代名詞、複合関係形容詞、複合関係副詞、関係副詞を理解し、それを使って自己表現できる。	
	7	Lesson4 Ahmed Gift of Life		１３	・パレスチナ・イスラエル問題および紛争解決に関する話を聞くこと、読むことで理解することができる。 ・仮定法を理解し、それを使って自己表現できる。	
	8 9	Lesson5 The World of Miyazawa Kenji is our world		１３	・宮沢賢治の世界観に関する話を聞くこと、読むことで理解することができる。 ・無生物主語、強調構文を理解し、それを使って自己表現できる。	
	11 11	Lesson6 Machu Picchu: City in the Clouds		１３	・世界遺産マチュピチュの歴史と現在の姿に関する話を聞くこと、読むことで理解することができる。	
	12 1	Lesson7Dick Bruna: Profound Nature of Simplicity		１３	・動名詞、不定詞を理解し、それを使って自己表現できる。 ・画家パウル・クレーに関する話を聞くこと、読むことで理解することができる。	
	2 3	Lesson8 Emotion gone wild		１３ １４	・関係代名詞を理解し、それを使って自己表現できる。 ・動物の感情に関する話を聞くこと、読むことで理解することができる。 ・There 構文を理解し、それを使って自己表現できる。	
備考：			合計	105		

教　科　名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	２単位
対 象 学 年	２年総合・調理	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
学習内容の概要	・生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して，言語活動を英語で行う。 ・事物に関する紹介や対話などを聞いて，情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえたりする。 ・説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ・聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどについて，話し合うなどして結論をまとめる。 ・聞いたり読んだりしたこと学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	・小テスト（対話テストなど） ・定期考査（中間考査、期末考査）	・定期考査（中間考査、期末考査）
教科書、教材など	VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）、VISTA English Communication Ⅱwork book（三省堂） ユメタンＯ（アルク）英検過去問題（旺文社）総合問題集　crossbeam　Bridge（ｴﾐﾙ出版）			
授 業 形 態	一斉			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
	4	L.1Birthdays, Here and There	ユメタン音読、	8	・3つの国の誕生日の祝い方を知る。 ・疑問詞やifで始まる節を用いて、疑問や不明であることを伝えられるようにする	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	5	期末考査	ユメタンテスト	12	英検過去問のリスニングに慣らす	
	6	英検対策	英検文法・リスニング対策			
	7	L.2The Emerald Isle		12	・アイルランドの言語や文化、日本との共通点を知る。	
	8	英検対策	・本文内容理解	6	・比較の表現を用いて、さまざまなものを比べられるようにする。英検	
	9	L	・ワークシート	4		
	10	総合問題集	・本文要約	12	・スペインにあるサグラダ・ファミリアについて学び、その歴史と建築について知る。	
	11	中間考査 L.3The Sagrada Familia	・文法事項の確認、練習	8	・過去分詞と現在分詞を使い分けられるようにする。 ・国際的権威のある賞の１つ、ノーベル賞についてのこぼれ話を知って関心を深める。	
	12	期末考査		12	・知覚動詞の形に慣れさせる。 ・tell ～ to do などの形に慣れさせる。	
	1	L.4Nobel Prize Episodes	・本文音読	4	・ハワード・カーターがツタンカーメンの墓で最も美しいと思ったのは何だったかを知り、その理由を考える。 ・使役動詞の形に慣れさせる。 ・関係代名詞 what の使い方に慣れさせる。	
	2	L.5Flowers in the Tomb				
	3	学年末考査				
備考：			合計	78		

教　科　名	外国語科	科目名	「英語表現II」	単位数	３単位
対 象 学 年	２年特進	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	1. 英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。				
学習内容の概要	１．与えられた条件に合わせ、即興で話す。また、伝えたい内容を整理して論理的に話す。 ２．主題を決め、様々な種類の文章を書く。 ３．聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験に基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。また、それを聞いて質問したり、意見を述べたりする。 ４．多様な考え方ができる話題について、立場を決めて意見をまとめ、相手を説得するために意見を述べ合う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語を聞いたり、読んだりして、情報や話し手や書き手の意向など相手が伝えようとすることを理解する。	外国語を用いて、情報や考えなど伝えたいことを話したり、書いたりして表現する。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともにその背景にある文化などを理解している。
評価方法	授業態度・参加度・発表回数	発表内容・聞き取り	小テスト・宿題	（中間考査＋期末考査）の考査平均点×0,8

教科書、教材など	*NEW FAVORITE English Expression II*（英 II 317）（東京書籍）
授 業 形 態	一斉、グループワーク

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	Bridge Lesson 1～3	1年の復習	7		授業態度・参加度・提出物・小テスト・期末考査の成績を総合して評価
	5	Lesson1 School Uniforms Lesson 2 Online Addiction 中間考査･テスト解説 特別授業	リスニング・練習問題・スピーチ 英語でのプレゼンの方法を学ぶ。分かりやすいパワーポイントの作成方法を学ぶ。外国人にとって魅力的な倉吉にするアイデアを出し合う。	5 6 2 4	・学校生活における制服に賛成［反対］する理由を挙げることができる。・注意すべき自動詞と他動詞・時制 ・オンラインゲームの問題点について，話し合うことができる。 ・助動詞を使った表現　・提案や命令などを表す表現	
2	6 7	Lesson 3 Using the Internet 期末考査･テスト解説 Lesson 4 Specialization in Sports		6 2 5	・インターネットの良い点、悪い点、利用法について考える。・to 不定詞の完了形、否定、慣用表現 ・最近のニュースについて発表する。・動名詞の意味上の主語、完了形、否定形、受け身、慣用表現	
	8	Expression Workshop Lesson 5　Writing a Diary in English	復習	2 5	・英語で日記をつける表現方法を学ぶ。 ・注意すべき分詞、分詞構文、慣用的な分詞構文	
	9	Lesson 6 My future Career 中間考査・テスト解説 特別授業	外国人にとって魅力的な倉吉にするアイデアを出し合い、グループでプレゼンのためのパワーポイントを作成する。	5 6 2	・将来の夢、職業、してみたいことを相手に伝える表現。・比較とその慣用表現	
	10	Lesson7　Pets Lesson8 A little Escape	復習	4 6 5	・身近な存在であるペットについて、自分の意見を発表する	
	11	Expression Workshop 期末考査･テスト解説 Lesson9		2 2 5	・使役動詞、進行形、get を用いた受け身 ・無生物主語、名詞構文を用いた表現 ・自分の行ってみたい場所の広告文を作る。・関係詞	
	12	Good Fortune Lesson10 Barrier-Free Society		5	・仮定法を用いた表現 ・バリアフリーな町を実現するために必要な配慮について考える。注意すべき仮定法表現	
3	1 2	Lesson11 Food Self-Sufficiency Lessson 12 Japanese Longevity 学年末考査･テスト解説 特別授業	外国人にとって魅力的な倉吉にするアイデアを出し合い、グループでプレゼンのためのパワーポイントを作成し、発表する。	5 5 2	・日本の農業が抱える問題を調べ、食糧自給率についても考える。・直接話法と間接話法 ・変化しつつある日本人の食生活を元に、自分自身の食生活の問題点についても考える。・無生物主語	
	3	Expression Workshop Paragraph &Essay Writing	復習	4 3		
備考：			合計	105		

教　科　名	英語	科目名	英語表現Ⅰ	単位数	２単位
対 象 学 年	2年総合	履修形態	選択	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ・英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 ア与えられた話題について即興で話す。 イ読み手や目的に応じて簡潔に書く。 ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解
	コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・presentation, ・会話テスト ・授業中の会話・表現	・小テスト(復習テスト) ・定期考査（中間考査、期末考査）	・定期考査（中間考査、期末考査）の 考査平均点×0,8

教科書、教材など	New One World English Expression Ⅰ（教育出版）、New One World English Expression Ⅰ授業ノート
授　業　形　態	一斉

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	本課の学習に入る前に Lesson1 My Name Is Michael Smith 中間考査	・ターゲットセンテンスのリスニング・音読 ・文法練習 ・練習問題 ・中学校復習	１０ 1	・主語と動詞の関係・品詞・文の要素・句と節・文構造・文の種類・修飾表現、基礎の復習 ・現在形の用法などが理解できる。 ・現在形などを使って情報を正確に伝えることができる。・英語で自分や友だちを紹介できる。	授業への参加姿勢 定期考査の成績を総合して評価
	6	Lesson2 We Are Going to Have a picnic	・プレゼンテーション ・ショートスピーチ	6	・意思や予定を表す表現を理解できる。 ・意思や予定を表す表現を使って、情報を正確に伝えることができる。 ・英語で自分の意思や予定を述べることができる。	
2		Lesson3 School Rules 期末考査		5 1	・助動詞の意味と用法が理解できる。 ・適切な助動詞を選んで英文を作ることができる。 ・英語で学校の規則を紹介することができる。	
	7	Lesson４Going to Canada to See Hiroko		6	・to 不定詞の３つの用法の作り方を理解できる ・to 不定詞を使って情報を正確に伝えることができる。 ・英語で長期休暇の計画や思い出について表現できる。	
	8	Review Practice1		8	・それぞれの受検級の過去問題に取り組む。	
	9	英検演習 中間考査		1		
	10	Lesson ５ It’s a small World		6	・現在完了形などが理解できる。 ・現在完了形などを使って情報を正確に伝えることができる。 ・英語で自分や友だちの最近の出来事を説明できる。	
	11	Lesson ６ What Is This Called?		6	・受動態を使った英文を正確に理解できる。 ・受動態を使って情報を正確に伝えることができる。	
	12	期末考査		1	・英語で日本の伝統文化や祭りを紹介できる。	
	1	Lesson ７ I Like Playing the Piano		6	・動名詞を含む英文が理解できる。 ・動名詞を使って情報を正確に伝えることができる。 ・英語で自分の趣味について説明できる。	
	2	Lesson８ I Almost Forget to Tell You		6	・SVO などのつくり方が理解できる。 ・SVO などの構文を使って情報を正確に伝えることができる。	
	3	学年末考査 Review Practice2		1 6	・英語で体験したことを紹介できる。	
備考：			合計	70		

教　科　名	情報	科目名	社会と情報	単位数	２　単位
対 象 学 年	２年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	・高度情報化社会へ向けて、情報の質と量の多様化が進む中、正しいものもあれば、価値のないものもある。それらの中から意思決定に必要な情報を、短時間で効率よく、的確につかめることができるよう目指す。 ・国際化の時代において、常に新しい環境で新しい人々との関係を作っていくうえで、お互いに相手のことをよく知り、よく理解し合うことが必要である。そのために、自分のことを相手に短時間に印象深く知ってもらえるよう目指す。				
学習内容の概要	社会と情報の理論を学習する パソコンの実習、ワープロ・表計算・プレゼンテーションを学ぶ 人権教育公開発表、インターシップ、修学旅行他学校行事の調べ学習				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	・授業態度・実習課題 ・出席状況	前期・後期の期末時に実技試験を実施。	各資格試験を受験する。 ・ビジネス文書７月・11月 ・情報処理	定期考査 （実技・筆記試験を実施）

評価方法	・取組む姿勢（授業・検定受検・定期考査等）・提出物の状況・出席状況
教科書、教材など	社会と情報（東京書籍） ビジネス文書実務検定模擬試験問題集
授　業　形　態	実習室での授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
	4 ５６ 7 8 9 10 11 １２ 1 2 3	１章　情報を活用する ２章　ネットワークを探索する ３章　情報社会の課題を見つける ４章　望ましい情報社会に向かう パソコン実習 ワープロ（Word） ビジネス文書検定対策 表計算（Ｅxcel） データ入力の基礎 基本的なワークシートの編集。 インターンシップ 修学旅行の調べ学習	約 30 分間、教科書に合わせたＤＶＤ（ＮＨＫ高校講座）を見て重要な箇所の確認ほか要点をおさえる。 ※　最後５分間は説明をし単元を振返る 約２０分間　パソコン実習 起動と終了 基本的な画面構成 タイピング練習。 ワープロを使ってみよう ※　文字を入力、訂正、挿入、削除する。 ※　文書を入力（資格試験３級レベル） Ｅxcel2000 とは。 起動と終了。 ワークシートの編集 ※　列の挿入・削除 ※　移動・コピー ※　データの修正 ※　オートフィル機能 ※　関数の活用 グラフの作成　　等 インターネットを利用し場所、仕事内容の確認 インターネット利用し班行動の計画作成他	２６ １６ ２０ 4 4	教科書を読み言葉の意味等を学習していくことがポイントであるが、教科書に書の に合った講座をＮＨＫが放映していた番組を今回利用してみた。 入力画面と各部説明。 データ入力の基礎。 データを入力 入力画面と各部説明。 データ入力の基礎。 データを入力 自分がお世話になる企業をを調べる（通勤方法他） 自分達の行動計画、およびこび日確認他。	定期考査および自分で作成した各単元をまとめたプリント。 定期考査で理解度を確認する。

備考：	合計	70		

教　科　名	情報選択	科目名	情報表現・情報処理	単位数	４単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態	選択必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	・高度情報化社会へ向けて、情報の質と量の多様化が進む中、正しいものもあれば、価値のないもある。それらの中から意思決定に必要な情報を、短時間で効率よく、的確につかめることがで よう目指す。 ・国際化の時代において、常に新しい環境で新しい人々との関係を作っていくうえで、お互いに 相手のことをよく知り、よく理解し合うことが必要である。そのために、自分のことを相手に短 時間に印象深く知ってもらえるよう目指す。				
学習内容の概要	・プレゼンテーションの基礎を学ぶ ・パワーポイントの使い方を学ぶ。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	・授業態度 ・ノート提出 ・出席状況	・課題作品	・発表	・定期考査

評価方法	・教室・実習時：学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。 ・発表時：発表する側の態度・聞く側の態度を評価する。
教科書、教材など	・プレゼンテーションソフトの活用 ・発表技法
授 業 形 態	

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価方法
	4月～3月		１．プレゼンテーションとは何か。 ２．プレゼンテーションはなぜ必要か。 ３．プレゼンテーションと日常会話 ４.プレゼンテーションにはどのような場面があるか ５.プレゼンテーションの形式にはどのようなものがあるか ６.プレゼンテーションの全体の流れはどのようなものか ７.プレゼンテーション本番の進行と話の構成 ８.プレゼンテーションを行うには何を準備しなければならないか。	40	・プレゼンテーションという言葉を理解する。 ・目的・準備・段階を学ぶ。 ・プレゼンテーションと日常会話の違いを理解する。 ・さまざまな場面でのプレゼンテーションを知る。 ・プレゼンテーションのさまざまな形式を知り、会場のサイズ・ 聞き手の人数などによっても左右されることを理解する。 ・プレゼンテーションの準備から本番、そして評価までの全体の流れを理解する。 ・与えられた持ち時間の中で、どのように進行していくのかを理解する。 ・与えられた条件の中で、効果的にわかりやすく伝え、聞き手の意思決定を促すことができるか。	
			・プレゼンテーションの作成 ※個人作成 ・テーマ内容を決定 ・テーマの目的・概要を決定 ・内容の構成の作成 ・作業工程表の作成 ・発表資料の収集 ※グループ作成	60 40	・パワーポイントの資料を作成するための方法を学び、発表の目的に合った作成方法を理解する。 ・自己紹介のプレゼンテーション 資料を作成 ・自分たちの思いや考えを、どのように伝えるのか、どのようにすると理解してもらえるかなどを念頭に置きながら、ストーリーを重視した構成を考える。 ・工程表を作成し、その都度、現在の進捗状況を考えながら行っていく。	
備考：			合計	140		

教　科　名	福 祉 科	科目名	福祉基礎・基礎介護	単位数	４単位
対 象 学 年	第 ２ 学 年	履修形態	選択履修	科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社旗福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	○社旗福祉に関する知識や技術を断片的に捉えるのではなく、社会福祉施設の見学、実習、ボランティア活動などを通して、活用できる知識と技術を身に付けさせる。 ○社会福祉教育においては、知識と技術の習得にとどまらず、社会福祉関連の職業に従事擦する者として求められる福祉観や倫理観を高めさせる。 ○福祉社会の一員として生活上の問題に関心をもち、人間としての尊厳の保持やプライバシーの尊重など自立生活を支援する態度を養う。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	高齢化社会の諸問題を取り上げ、これに追随する諸課題に目を向けさせるとともに、解決策を思考する。	福祉問題の解決策を考えるとともに、人間としての尊厳を守る生き方を極めたい。	介護の現場を「生の目」で検証させることにより、理論どおりにはいかない人間社会の複雑さが見えてくる。	高齢化社会の諸問題に目をむけ、法律・制度等に解決策を見出すのではなく、人間としての資質・生き方に解決策を見出させる。
評価方法	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する

教科書、教材など	中央法規　介護職員初任者研修テキスト１・２
授業形態	一斉授業・実技演習　　施設見学及び介護実習

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間（実習）	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	職務の理解	○職務の理解 ・多様なサービスの理解 ・介護職の仕事内容 ・介護職員初任者研修	12	○「在宅におけるケア」の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うかイメージをもって実感し、実践的に取り組む。	授業の取り組み及び定期考査、介護実技内容により評価する
	5	介護における尊厳の保持・自立支援 中間考査	○人権と尊厳を支える介護 ・生活の質（ＱＯＬ） ○自立に向けた介護 ・自立に向けた介護 ・予防介護	16 (4)	○介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し介護を適切に行う能力と態度を養う。	
	6・7・8	介護の基本 期末考査	○介護職の役割、専門性と多職種連携 ・介護環境の特徴の理解 ○介護食の職業倫理 ・介護サービスの公共性と職業倫理 ・利用者、家族に対する責任 ○介護における安全の確保とリスクマネージメント ・介護における安全の確保	36	○介護の考え方について理解するとともに、介護を必要とする人を生活の観点からとらえ、介護を適切に行う能力と態度を育む。 ○高齢者になることにより生じる健康問題や生活の変化、就労・雇用・収入や余暇活動などの諸課題について理解する。	
2	9	介護・福祉サービスの理解と、医療との連携	○介護保険制度 ・介護保険制度創設の背景 ・介護保険制度の基本的理解 ○医療との連携とリハビリテーション ・医行為と介護	12	○介護保険制度の背景を理解するとともに、制度の内容・種類・保険金・保険料などについて理解する。 ○介護保険に限らずその他の生活支援制度について理解する。	
	10・11・12	老化の理解 中間考査 期末考査	○老化に伴う心と体の変化と日常 ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ・老化に伴うからだの変化と日常 ○高齢者と健康 ・高齢者の疾病と生活上の留意点 ・高齢者に多い病気と日常生活上の留意点	40 (6)	○老化に伴うさまざまな生活上の変化及び身体的・精神的な衰えについて理解する。 ○高齢者に多くみられる病気・症状などを具体的に取り上げ、その原因と治療及び病気への対策を理解する。 ○日常生活上の困難や課題を理解するとともに、留意点についても考察する。	
3	1・2・3	認知症の理解 期末考査	○認知症を取り巻く状況 ・認知症ケアの理念 ○認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 ・認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の利用者への対応 ○家族への支援 ・認知症家族介護者の現場の理解 ・認知症を持つ人の声、家族の声	24	○高齢者の１０人に１人が罹患するといわれている「認知症」について、症状・課題・生活上に問題など理解する。 ○「認知症」は、本人に留まらず、本人を取り巻く家族・親族など、多くの現場の声を聞くことで、社会全体で考えなければならない問題であることを認識する。	
	「備考：3年　福祉基礎・介護演習」		合　計	140		

教　科　名	家庭	科目名	生活産業基礎	単位数	２単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てる。				
学習内容の概要	家庭学科における必修科目として、衣食住やヒューマンサービスなどの生活産業に関する学びをとおして、専門科目の学習への動機づけや、卒業後の進路に向けて意識を深めることをねらいとする科目である。人々の生活を支える生活産業への理解を深めるとともに、衣食住やヒューマンサービスに関する職業について、身近な題材をとおして主体的に学習することにより、その知識や技術を職業人として役立てようとする意欲と態度を育てる。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	生活と産業とのかかわりや生活に関連する職業について関心をもち、生活関連分野のスペシャリストとして必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を身につけている。	生活と産業とのかかわりや生活産業と職業に関する学習を通して、家庭に関する学科のより専門的な学習と卒業後の進路について思考を深めている。	生活と産業とのかかわりや生活産業と職業に関する学習活動を計画し実践するとともに、その成果を表現することができる。	人々の生活を理解するとともに、生活と産業とのかかわり、生活産業の意義と役割、生活に関連する各分野の職業について理解している。
評価方法	授業態度 ノート 課題（プリント・ワークシート・感想文）	授業態度 ノート 課題（プリント・ワークシート・感想文） 発表	授業態度 ノート 課題（プリント・ワークシート・感想文） 発表	定期考査 ノート 課題（プリント・ワークシート・感想文）
教科書、教材など	実教出版　「生活産業基礎」			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4 5	「生活産業基礎」を学ぶ	私たちの生活と「生活産業」 「生活産業」のスペシャリストになるために	8	・価値観やライフスタイル、ニーズの多様化について理解する。 ・生活産業の役割と発展について理解する。	定期考査・課題提出・発表・授業態度などを総合して評価する
	6	生活に対応した商品・サービスの提供	消費者ニーズの把握 商品・サービスの企画・開発及び販売・提供	10	・消費者のニーズをとらえることの重要性を理解する。 ・消費者アンケートを作成する。 ・新商品やサービスの開発について考える。	
	7	期末考査	関連法規		・法令や法令遵守の重要性について理解する。	
	8 9	食生活関連分野の産業と職業	食生活の変化と生活産業のかかわり	18	・食生活の特徴と現代的課題を理解する。 ・食生活や食に対する価値観の変化について理解する。 ・食生活に関する産業についての理解を深める。 ・食関連の消費者ニーズや消費行動について考える。	
	10	中間考査	食生活関連産業の職業と資格		・食に関する資格や職業について興味・関心を持つ。	
		ヒューマンサービス関連分野の産業と職業	社会の変化とヒューマンサービス	8	・少子高齢化、ライフスタイルや価値観の変化・多様化と社会の変化について理解する。 ・社会化されたヒューマンサービスの意義と役割を理解する。	
	11		ヒューマンサービス関連産業の職業と資格		・ヒューマンサービスに関する資格や職業について知る。	
		衣生活関連分野の産業と職業	衣生活の変化と生活産業とのかかわり	6	・衣生活に関する産業の意義と役割を理解する。 ・ライフスタイルの変化とファッションの多様化について考える。	
	12	期末考査	衣生活関連産業の職業と資格		・衣生活に関する資格や職業について知る。	
		住生活関連分野の産業と職業	住生活の変化と生活産業とのかかわり	6	・住生活に関する産業の意義と役割を理解する。 ・ライフステージに合わせたライフスタイルについて考える。	
			住生活の変化と住生活関連産業の職業と資格		・住生活に関する資格や職業について知る。	
	1 2 3	職業生活と自己実現 学年末考査	職業生活と生きがい 将来の生活と学業	14	・働くことの意義を理解し、意欲・関心を高める。 ・職業人として求められる資質・能力、役割、責任について考える。 ・自身の職業生活について考え、そのための学習の目標を再確認する。	
備考：			合計	70		

教　科　名	家庭科	科目名	公衆衛生	単位数	１単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	一斉	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	健康の保持・増進に寄与する食生活の重要性を認識し、わが国の健康の現状とともに、調理師法、健康増進法及び食育基本法などの健康づくりや食生活の向上に関する法規や関連する対策及び活動について理解することを通して、調理師が果たすべき役割を理科する。				
学習内容の概要	素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保健全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	質問内容、レポート提出	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価

教科書、教材など	１　食生活と健康（社会法人全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	３　健康づくり	健康づくり対策	10	わが国における健康づくり対策 健康教育 健康に関する食品情報	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査				
	6		心の健康づくり		心身相関とストレス ストレスへの対処方法 心の健康と自己実現	
	7	期末考査				
	8					
	9	４　調理師と食育	食育とは	15	食育の定義、意義 食育基本保の概要	
	10	中間考査	食育における調理師の役割		正しい知識の提供 食育の実践	
	11	５　労働と健康	労働と健康		作業環境と健康 作業条件と健康 職業病 労働災害	
	12	期末考査				
	1		調理師の職場環境	10	職場環境の現状 調理施設の環境 調理施設での労働災害	
	2	学年末考査				
	3		1年間のまとめ			
備考：			合計	35		

教　科　名	家庭科	科目名	食品衛生	単位数	２単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらし、場合いによっては生命を左右することがあるため これを認識し理解する				
学習内容の概要	食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。				

科目の評価規準 （観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。	事象を考察し，表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け，よりよく問題を解決する。	食品衛生における基本的な概念、微生物の知識を得、調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査
教科書、教材など	食品衛生（全国調理師養成施設協会）			
授 業 形 態	一斉授業			

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容 （活動・実験・実習等）	時間	単元の目標 （具体的な学習のポイント）	評価 方法
1	4	飲食による健康危害の種類	細菌性食中毒	25	細菌の種類．原因．症状など又食品内毒素の食中毒などを学び理解させる	観察 考査
	5					
	6	中間考査				
	7	期末考査				
2	9	中間考査		30		
	１０		ウイルス性食中毒		ウイルスの種類．原因．感染．症状などを学び理解させる	観察 考査
3	１１	期末考査				
	１２					
	1					
	2			15		観察 考査
	3	学年末考査				
備考：			合計	70		

教　科　名	家庭科	科目名	栄養	単位数	３単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態		科目ｺｰﾄﾞ	
科 目 の 目 標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	栄養状態の改善の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び，健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	食生活の現状から栄養に関する課題を発見し，栄養面で健康の保持増進を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う	栄養素の機能と代謝，各ライフステージにおける栄養，労働・スポーツと栄養などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けようとする	栄養における基本的な概念、食品の知識を得栄養と体との関係を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察 課題の提出など.	授業中の話し合い、発表、定期考査、小テストなど	献立作成、栄養価計算、定期考査など	定期考査、小テストなどによる評価

教科書、教材など	食品と栄養の特性（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	栄養素の機能と健康	栄養と健康	35	栄養素の種類について理解する 食品の成分と体の成分について理解する	提出課題・小テスト・定期考査の成績を総合して評価
			炭水化物			
	5		脂質		炭水化物の種類について理解する	
	6		たんぱく質		脂質の種類について理解する	
	7		ビタミン		たんぱく質の種類について理解する	
	8		ミネラル		ビタミンの種類について理解する	
			その他の成分		ミネラルの種類について理解する	
	9				水分、機能性成分について理解する	
2	10	献立作成	献立作成の方法と検討 ・献立とは ・作成方法 ・内容の検討	20	献立を制作にあたり組み立て方（季節、状態、地域）など食事の流れなど基本、また例などを元に学び理解する	
	11	消化と吸収	食品の摂取	10	食品の摂取について理解する 生理的欲求、心理的欲求、栄養管理について理解する	
	12		栄養素の消化・吸収・代謝		栄養素の消化、吸収、代謝について理解する	
3	1	エネルギー代謝と食事摂取基準	エネルギー代謝と食事摂取基準	20	エネルギー代謝について理解する エネルギー摂取量とエネルギー消費量について理解する	
	2		日本人の食品摂取基準	15	日本人の食品摂取基準について理解する 食事摂取基準の指標について理解する	
	3		食品の選択	10	食品標準成分表について理解し、栄養価計算ができるようになる 食品分類法について理解する 食事バランスガイドについて理解する	
備考：			合計	105		

教　科　名	家庭科	科目名	調理実習	単位数	４単位
対 象 学 年	第２学年	履修形態	必須	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	１年時に学んだ基礎的な調理を応用しプロとして使える技術と知識を身につけ、調理師にとって大切な心構えや礼儀なども高めていく				
学習内容の概要	１年時に学んだ基礎を応用し、より正確によりレベルの高い技術、知識を磨き、集中力や強調性も高められるように班別学習を通して学んでいく。				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	実習や授業に向かう態度や動きが良好で、食材や料理に対する関心をもっている。	試食や味の違いについて研究している。 実習中に味の濃い薄いについて調整している。 進行状況を把握し、時間をみて動けている。	お客様に提供する事を常に意識し、包丁、まな板の扱いが丁寧で最終的に盛りつけが美しく盛れている。	行程や知識がより実践的になる中で意識の高さや知識を磨いている。
評価方法	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	授業中の行動、取り組み方の観察等で評価する。	試食の際の盛りつけや作業中の片付け具合等の観察で評価する。	A・B・C・D・E 5・4・3・2・1 技術テストにより評価する

教科書、教材など	新調理師養成教育全書　必修編　調理実習、調理実習レシピなど
授 業 形 態	一斉、班別学習

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	① 一年時の復習をかねて	食材の切り方 包丁の使い方	8	･1年時の復習をかねてだし、ブイヨンの取り方や包丁の使い方をももう一度理解する。	授業中の行動、取り組み方の観察や技術考査などにより評価する。
		② イタリアン	オイルベースのパスタ 調理用語	10	・パスタのゆで方、乳化の仕方を理解する。 ・フランス料理、イタリア料理の調理用語を理解する。	
	5	③ フレンチ	野菜の切り方 シャトー剥き	12	・フランス料理のカットの仕方（シャトー剥きなど）を反復練習して技術習得を目指す。	
	6	④ 日本料理	巻き寿司 煮物	14	・巻き寿司の練習する。 ･煮物の炊き方、料理にあう魚の処理の仕方を学ぶ。	
		⑤ 焼き菓子	オーブンの使い方		・焼き菓子で使う器具の使い方を理解し、オーブンの温度の調整や食材の特性を学ぶ。	
	7	技術テスト				
		⑥ 大掃除	床掃除	2	・普段手入れの行き届かないところの掃除を徹底し、調理師としての自覚を養う。	
2	8 9	⑦ 西洋料理のオードブル	食材のマリネなど	6	・西洋料理の前菜をおいしく美しく作り実際に提供する事を意識して調理師としての意識を高める。	
		⑧ 栄養学、食品学を取り入れて	生徒が考えた献立を生徒が試作し発表し調理する	12	･計画をしっかりと立て調理を通してチームワークや実践力を高め集団調理実習を理解する。	
	10	⑨ 中華飾り切りなどゲストティチャーを招いて	中華の食材の切り方 特殊材料とその扱い方	12	・講師を招いて中華料理の技法、食材、香辛料について専門的に学ぶ。	
	11	⑩ 卵料理	オムレツの巻き方	6	・火力、技術をうまく使い調理師はオムレツができないと一人前でないとさえいわれる料理の習得を目指す。	
		⑪ スイーツ	製菓の器具、食材の扱い方	4	・ホイッパーをうまく使い形のよい生菓子仕上げる	
	12	⑫ 包丁の技術向上	煮物	10	・料理のあしらいやガルニ作りを季節感を意識しながら包丁を使って調理する	
		⑬ だしを使った料理	ソース作り	10		
3		技術テスト				
	1	⑭ 大掃除	床掃除	2	・普段手入れの行き届かないところの掃除を徹底し、調理師としての自覚を養う。	
		⑮ 揚げ物	天ぷら、フリット	8		
		⑯ 煮物	煮付け、炊き合わせ	4	・季節なども意識しながら煮炊きする火加減、味加減や油の温度調節、寿司の握り方を学び理解し調理師として精神力を高め技術向上し調理師として実習を行う。	
		⑰ 飯物	赤飯、炊き込みご飯	4		
	2	⑱ 寿司	にぎり、軍艦	4		
		⑲ 西洋料理ソースを使った料理	ポワソン、ヴィアンド	14	・ヒュメドポワソンやフォンドボーなどを使い食材に合わせたソースの作り方を理解する。	
	3	技術テスト		2		
		⑳ 大掃除	床掃除		・普段手入れの行き届かないところの掃除を徹底し、調理師としての自覚を養う。	
備考：			合計	144		

教　科　名	家庭科	科目名	調理理論	単位数	２単位
対 象 学 年	第　２　学年	履修形態	必修	科目ｺｰﾄﾞ	
科目の目標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				

科目の評価規準（観点及びその趣旨）	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	食文化の継承や調理師の使命としての知識や役割を学ぶ	美味しいもの、安全なものを考える、人々の健康を維持する	伝統調理技術、調理様式などを受け継ぎさらに新たな調理法を創造する	人々の健康、生命の維持、食の安全など社会的に重い職業である
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察	テストなどによる評価	授業中の取り組みの状態 テストなどによる評価	テストなどによる評価

教科書、教材など	調理理論と食文化概論（全国調理師養成施設協会）
授 業 形 態	一斉授業

年　間　授　業　計　画

学期	月	単　　元	学 習 内 容（活動・実験・実習等）	時間	単元の目標（具体的な学習のポイント）	評価方法
1	4	食品の調理科学	植物性食品 ・豆類	20	食品と栄養の特性を理解させる 豆類、種実類、野菜類、果実類、きのこ類、藻類などの特性や栄養、成分、利用法などの要点をまとめ、理解する	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	中間考査	・種実類			
	6		・野菜類			
	7		・果実類			
2	8	期末考査	・きのこ類			
	9		・藻類			
	10	中間考査	動物性食品 ・魚介類	35	動物性食品の調理操作、栄養、保存の仕方など要点をまとめ、理解する	
	11		・食肉類			
		期末考査	・卵類		卵類、乳類の調理操作、特徴、成分などの要点をまとめ、学習し、理解する	
	12		・乳類		牛乳、乳製品などの加工、調理操作、成分などをまとめ、理解する	
			その他の食品 ・油脂類 ・調味料 ・ゲル状食品			
3	1	調理設備・器具と熱源	調理施設・設備とは	15	調理器具・施設・設備についての特徴や使用方法など要点をまとめ、理解する	
		学年末考査			料理の種類によって器具や食器が違うことを理解する	
	2					
	3					
備考：			合計	70		